

令和5年度（2023年度）臨床研修医の 募集定員について

熊本県健康福祉部

臨床研修医の募集定員について

- 臨床研修とは、医師法（昭和二十三年法律第二百一号）において、診療に従事しようとする医師は、二年以上、都道府県知事の指定する病院又は外国の病院で厚生労働大臣の指定するものにおいて、受けなければならないとされている研修。
- 同法において、都道府県知事は、研修医の定員を定めようとするときは、あらかじめ、地域医療対策協議会の意見を聴かなければならないこととされているため、本協議会でお諮りする。
- 本日の協議結果に基づき、令和5年度の各基幹型臨床研修病院における臨床研修の募集定員を定め、厚生労働省及び九州厚生局へ通知するとともに、各基幹型臨床研修病院に通知する。

<参考> 『医師法』（昭和二十三年法律第二百一号） ※一部抜粋

第16条の3

- 5 都道府県知事は、研修医の定員を定めようとするときは、あらかじめ、その内容について厚生労働大臣に通知しなければならない。
- 6 都道府県知事は、前項の規定による通知をしようとするときは、あらかじめ、地域医療対策協議会の意見を聴かなければならない。
- 7 都道府県知事は、前項の規定により地域医療対策協議会の意見を聴いたときは、研修医の定員を定めるに当たり、当該意見を反映させるよう努めなければならない。

令和5年度臨床研修医の募集定員上限の算定方法について

1. 令和3年12月23日付け厚生労働省事務連絡による上限数

(1) 仮上限数の設定

① 基本となる数 + ② 地域枠による加算 + ③ 地理的条件等による加算

熊本県	117人	+5人	+18人	= 140人 (仮上限数)
-----	------	-----	------	---------------

(2) 激変緩和措置

$$\text{熊本県仮上限数 } 140\text{人} - \text{激変緩和 } 0\text{人} = \underline{140\text{人}}$$

仮上限数が前年度採用数に満たない都市部（東京都等）の前年度採用数を確保するため、地方の仮上限数から採用実績に応じて按分した数を減数し、都市部の定員に充当。

※令和4年度の募集定員上限を全て病院に配分した都道府県は、定員削減の対象外。（本県該当）

(3) 減少率の加算

$$\text{上限数 } 140\text{人} + \text{減少率の加算 } 2\text{人} = \underline{142\text{人}}$$

募集定員上限の減少率が全体の募集定員上限の減少率を上回る都道府県については、減少率が全体の募集定員上限の減少率となるまで加算。

※令和4年度の募集定員上限を全て病院に配分した都道府県のみ対象。（本県該当）

2. 令和4年1月28日付け厚生労働省事務連絡による上限数の追加

$$\text{上限数 } 142\text{人} + \text{臨時的な上限追加 } 5\text{人} = \underline{147\text{人}}$$

令和5年度の募集定員上限が、各都道府県が定めた令和4年度の募集定員（本県の場合147人）を下回る都道府県は、令和4年度の募集定員を限度とし、募集定員上限に最大5人を追加することが可能となった。

本県の令和5年度臨床研修医の募集定員に関する方針

1. 基本方針

- 県全体のマッチング率90%以上を目指す。
- 地域に定着できる医師の育成体制を構築。

2. 県の配分方針

- (1) 令和5年度の本県の募集定員の総数は厚生労働省から示された上限数をすべて活用し、147人とする。
- (2) 令和5年度の各病院の募集定員については、上記基本方針に基づき、各病院の現状及び次年度の取組み等を勘案し、配分する。

【参考】令和3年度マッチング率

- 県全体における、今年度（令和4年度開始分）のマッチング率（自治医含む）は、68.7%
- 昨年度のマッチング率70.1%から1.4%減少

基幹型臨床研修病院	(A)	R3 マッチ者数 (R4研修分)	R3 マッチ率 (R4研修分)	R3 2次募集	(B) R4 研修医数	R5 募集定員
	R4 募集定員					
熊本医療センター	19	19	100%		19	
熊本市民病院	6	6	100%		6	
くまもと森都総合病院	2	1	50%	1	2	
熊本赤十字病院	15	15	100%		15	
熊本大学病院	40	7	18%	2	9	
熊本大学病院（小・産）	4	0	0%	0	0	
熊本中央病院	8	8	100%		8	
済生会熊本病院	13	13	100%		13	
荒尾市民病院	6	6	100%		6	
くまもと県北病院	8	8	100%		8	
熊本総合病院	4	0	0%	2	2	
熊本労災病院	8	8	100%		8	
国保水俣市立 総合医療センター	3	3	100%		3	
人吉医療センター	7	3	43%	4	7	
天草地域医療センター	4	4	100%		4	
熊本県 計	147	101	68.7%	9	110	147

※自治医含む

各病院の希望定員数及びフルマッチに向けた取組み

※各基幹型臨床研修病院へ希望定員数を確認

基幹型臨床研修病院	(A) R4 募集定員	R3		(B) 各病院 希望定員数	(参考) R4→R5 募集定員数 増減 (B)-(A)	フルマッチに向けた取組み
		マッチ者数 (R4研修分)	マッチ率 (R4研修分)			
熊本医療センター	19	19	100%	19	0	令和3年度フルマッチ
熊本市民病院	6	6	100%	10	4	【令和3年度フルマッチであったが取組み内容を記載】 eレジ、県・大学主催の説明会への参加に加え、感染対策本部のルールに従い、当院独自の説明会を行うとともに、病院見学者を受け入れていく。
くまもと森都総合病院	2	1	50%	2	0	病院説明会等にて病院見学の実施を積極的に促し、病院見学の件数を例年以上に確保する。
熊本赤十字病院	15	15	100%	15	0	令和3年度フルマッチ
熊本大学病院	44	7	16%	40	-4	本学医学部生及び現在研修中の研修医へのアンケート調査で希望が多かった「救急研修の充実」を図る取組みとして、必修の救急研修に加えて、月に1回又は2回、希望する研修医を対象に救急研修を実施する。 また、住居手当の支給等、研修医の処遇改善について現在学内で検討中である。
熊本中央病院	8	8	100%	8	0	令和3年度フルマッチ
済生会熊本病院	13	13	100%	13	0	令和3年度フルマッチ
荒尾市民病院	6	6	100%	6	0	令和3年度フルマッチ
くまもと県北病院	8	8	100%	8	0	令和3年度フルマッチ
熊本総合病院	4	0	0%	4	0	基幹型臨床研修病院として5年目を迎えるが、これまでは実績や知名度が無かったため、1度もフルマッチするまでには至らなかった。しかしながら、実際に研修した臨床研修医の情報や、医学生の実習受け入れ増により、着実に病院を知ってもらえる機会が増えているので、少しずつではあるが手ごたえは感じている。そのため、最低定員である4名は確保願いたい。
熊本労災病院	8	8	100%	8	0	令和3年度フルマッチ
国保水俣市立 総合医療センター	3	3	100%	3	0	令和3年度フルマッチ
人吉医療センター	7	3	43%	7	0	WEBを含む説明会等への参加やホームページでの情報発信、当院に医学実習に来られる学生さんへのPRを行い、当院の臨床研修を知って頂く。また、研修内容について、在籍中の研修医の満足度や改善が必要な点をヒアリングして、今後の研修に活かしていく。
天草地域医療センター	4	4	100%	4	0	令和3年度フルマッチ
熊本県 計	147	101	68.7%	147	0	※本取組みに関する調査は令和4年1月時点

各病院の県内定着に向けた方策

※各基幹型臨床研修病院へ希望定員数を確認

基幹型臨床研修病院	(A) R4 募集定員	R3		(B) 各病院 希望定員数	(参考) R4→R5 募集定員数 増減 (B)-(A)	県内定着に向けた方策
		マッチ者数 (R4研修分)	マッチ率 (R4研修分)			
熊本医療センター	19	19	100%	19	0	院外研修先として、県内のへき地医療拠点病院を含む研修先を計画しており、研修期間中に県内で医療に従事する上での視野を広げることに寄与している。また、プライマリケア研修プログラムでは、熊本市外の中規模病院での長期間の研修を組み込んでおり、へき地医療への理解をより深めるものとなっている。
熊本市民病院	6	6	100%	10	4	熊大病院の各医局とも協同して人員の確保に努めていく。併せて、市民病院で働きたいと感じさせるよう、医療の質ならびに職員の生活を向上させるよう諸種の施策を実施していく。
くまもと森都総合病院	2	1	50%	2	0	院外研修先として、県内5つの協力型病院を計画し、研修期間中に県内の病院との交流機会を確保している。
熊本赤十字病院	15	15	100%	15	0	当院基幹型専門研修プログラムへの採用を積極的に行っており、専門研修中の地域研修については、県内へき地病院での研修を行っている。また、当院が基幹型でない診療科については、熊大病院への入局を推奨している。
熊本大学病院	44	7	16%	40	-4	本院は、19領域の専門プログラムを有しており、県内における主たる専門研修施設である。毎年6月に初期臨床研修医を対象に専門プログラムの説明会を実施し、病院見学についても随時受け付けており、県内の専攻医を増やすための取り組みを行っている。
熊本中央病院	8	8	100%	8	0	熊本大学病院医局説明会に関する情報提供等を行っている。
済生会熊本病院	13	13	100%	13	0	当院にある専門研修プログラムの内容を共有し、研修期間中に専攻医との交流機会を確保している。また、院外研修先は県内の協力型病院を中心に計画しており、多くの県内施設で研修を行うことができる。
荒尾市民病院	6	6	100%	6	0	現在は、症例数が足りず院内で研修ができない診療科があり、近隣の協力病院（県外）に依頼しているが、院内で完結できるような基幹型病院を目指し、毎月の研修管理委員会でプログラムの見直しを行っている。
くまもと県北病院	8	8	100%	8	0	院外研修先として、県内のへき地や協力型病院を中心に計画している。また、当院では専攻研修プログラムを持っていないので、熊大病院の入局を推奨している。
熊本総合病院	4	0	0%	4	0	院外研修先として、県内のへき地や協力型病院を中心に計画し、研修期間中に近隣の病院との交流機会を確保している。
熊本労災病院	8	8	100%	8	0	院外研修先として、県内6つの協力型病院を計画し、研修期間中に県内の病院との交流機会を確保している。
国保水俣市立 総合医療センター	3	3	100%	3	0	研修期間中に国立熊本医療センター、熊大病院等に院外研修として派遣しており、県内の病院との交流を図っている。
人吉医療センター	7	3	43%	7	0	令和4年度より地域医療研修の県内の協力施設を増やした。
天草地域医療センター	4	4	100%	4	0	院外研修先として、県内の協力型病院を中心に計画し、研修期間中に県内病院との交流機会を確保している。
熊本県 計	147	101	68.7%	147	0	※本方策に関する調査は令和4年1月時点

本県の令和5年度臨床研修医の募集定員（案）

基幹型臨床研修病院	(A) R4 募集定員				(B) R4 研修医数	R5 募集定員	(B) 各病院 希望定員数	(C) R5 募集定員案	(参考) R4→R5 募集定員数 増減 (C)-(A)
	R3 マッチ者数 (R4研修分)	R3 マッチ率 (R4研修分)	R3 2次募集						
熊本医療センター	19	19	100%		19		19	19	0
熊本市民病院	6	6	100%		6		10	10	4
くまもと森都総合病院	2	1	50%	1	2		2	2	0
熊本赤十字病院	15	15	100%		15		15	15	0
熊本大学病院	40	7	18%	2	9		36	36	-4
熊本大学病院（小・産）	4	0	0%	0	0		4	4	0
熊本中央病院	8	8	100%		8		8	8	0
済生会熊本病院	13	13	100%		13		13	13	0
荒尾市民病院	6	6	100%		6		6	6	0
くまもと県北病院	8	8	100%		8		8	8	0
熊本総合病院	4	0	0%	2	2		4	4	0
熊本労災病院	8	8	100%		8		8	8	0
国保水俣市立 総合医療センター	3	3	100%		3		3	3	0
人吉医療センター	7	3	43%	4	7		7	7	0
天草地域医療センター	4	4	100%		4		4	4	0
熊本県 計	147	101	68.7%	9	110	147	147	147	0

※自治医含む

①熊本市民病院については、以下の理由により、希望どおり増員とする。

- 希望調査の結果、熊本市民病院のみが増員を希望しており、熊本大学病院の減員希望分を活用して、本県の上限数以内で増員可能。
- 令和3年度に実施した臨床研修マッチング（令和4年度開始分）について、熊本市民病院は、募集定員6人に対し、マッチ者数6人でフルマッチしており、採用試験の受験者数については、令和2年度には15人（定員6人）、令和3年度には17人（定員6人）と2倍以上の応募があったこと、さらに、病院見学の申し込みについては、令和2年度は34人、令和3年度は33人と高い水準で推移していることから、4人増員となった後もフルマッチが見込める。
- 熊本大学病院の各医局と協同して人員の確保に努めていくこととしており、初期臨床研修修了後の県内定着が期待できる。

②熊本市民病院及び熊本大学病院以外の病院においては、約8割の病院がフルマッチを達成しており、全病院が研修医の県内定着に向けた方策を立てていることから、それらの方策を各病院が実施することで研修医のさらなる県内定着が見込まれるため、令和4年度の定員数を維持する。

以上の理由により、各基幹型臨床研修病院の募集定員を（案）のとおりとし、募集定員の総数は、厚生労働省から示された上限数と同数の147人とする。